

⑨ 日 本 国 特 許 庁 ( J P )

⑩ 実 用 新 案 出 願 公 開

⑫ 公 開 実 用 新 案 公 報 ( U )

昭 6 2 - 3 5 3 2 2

⑮ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公 開   昭 和 6 2 年 ( 1 9 8 7 ) 3 月 2 日

G 0 2 C   5 / 2 2

7 9 1 5 - 2 H

審査請求   未請求   ( 全   頁 )

⑭ 考 案 の 名 称   眼 鏡 に お け る 球 形 蝶 番 構 造

⑲ 実   願   昭 6 0 - 1 2 7 4 2 0

⑳ 出   願   昭 6 0 ( 1 9 8 5 ) 8 月 2 1 日

㉑ 考   案   者   青   柳   健   男   鯖 江 市 石 田 上 町 3 7 - 9

㉒ 出   願   人   青   柳   健   男   鯖 江 市 石 田 上 町 3 7 - 9

㉓ 代   理   人   弁 理 士   戸 川   公 二

明 細 書

1. 考案の名称

眼鏡における球形蝶番構造

2. 実用新案登録請求の範囲

- ① リム枠 1 の外側部に固定されたブラケット 2 の端部に球形部 3 を設け、この球形部 3 の横部大圏線に沿って一定幅のスリット 4 を形成して同スリット 4 内にはブラケット 2 の近接部位にストッパー 5 を設ける一方、当該球形部 3 の下半球の極点にはネジ孔 6 を設け、さらに上半球の極点には座剣 7 を有する沈み孔 8 を設け、他方、テンプル 10 の端部には前記球形部 3 と略同径でスリット 4 にフィットする円板状のフランジ部 11 を設け、このフランジ部の中心に前記沈み孔 8 と同径の軸孔 12 を設けると共に外周部には先端部から内側方向に約 90° にわたって前記ストッパーが招合する小径部 13 を設け、テンプル 10 先端のフランジ部 11 を前記球形部 3 のスリット 4 に組差し、沈み孔 8 の上方から蝶番軸 14 を挿入してその頭部が座剣 7 内に沈むよ

211

実開 62-35322





うに締め付け固定した眼鏡における球形蝶番構造。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 〔産業上の利用分野〕

本考案は、眼鏡蝶番の改良、詳しくは、蝶番を球形とすることによって使用時はもとより、テンブルを折り曲げた際に当該折曲部分に角張ることがなく、しかも洒落れた感じの外観を呈する球形蝶番構造に関するものである。

#### 〔従来技術、および解決すべき問題点〕

周知のとおり、眼鏡のテンブルは金属製、プラスチック製を問わず何れも、断面が偏平状で、リムの外側部に固定されたブラケットとの間で蝶番によって結合する構造になっている。それゆえ、テンブルを拡張したときはブラケットの端部とテンブルの突端部とが突き合せ状態となるが、不使用時にはテンブルを折り曲げるので、その両端面が略90°に開き、テンブルの突端部が外向きとな

って露出し衣服などに引掛けて其処を破ったりするという弊害があった。

本考案は、従来眼鏡蝶番における上記の如き欠点を除去すると共に、更に一步進んで、単調に流れ勝ちな眼鏡蝶番部分にワンポイント的デザインの特徴を付与することができる新構造の眼鏡蝶番を提供しようとするものである。

〔問題点を解決するために採用した手段〕

本考案が上記問題点を解決するために採用した手段を添付図面を参照して説明すると、次のとおりである。

即ち、本考案が提供する眼鏡蝶番は、リム枠1の外側部に固定されたブラケット2の端部に球形部3を設け、この球形部3の横部大圏線に沿って一定幅のスリット4を形成して、このスリット4内には前記ブラケット2に近い位置にストッパー5を設ける一方、当該球形部3の下半球極点にはネジ孔6を設け、さらにその上半球極点には座割7を有する沈み孔8を設け、他方、テンプル10の



29  
100

端部には前記球形部 3 と略同径で前記スリット 4 にフィットする円板状フランジ部 11 を設け、このフランジ部 11 の中心に前記沈み孔 8 と同径の軸孔 12 を設けると共に外周部には先端から内側方向に約  $90^\circ$  にわたって前記ストッパー 5 が摺合する幅の小径部 13 を設け、このテンプル先端のフランジ部 11 を前記球形部 3 のスリット 4 に組差し、沈み孔 8 の上方から螺番軸 14 を挿入してその頭部が座剣 7 内に沈むように締付け固定した構造を有する。

したがって、眼鏡使用時には第 3 図に示す如く、小径部 13 の先端側終端の段部にストッパー 5 が当接した状態でブラケット 2 とテンプル 10 とが直線状となり、他方、テンプル 10 の折り曲げ時には小径部 13 のもう一方の段部にストッパー 5 が当接して位置決めされる。

〔本考案の効果〕

本考案眼鏡は、上記の如く球形状の支承螺番片と円板状の組み合わせ構造としたため、外観的に突出部や角張ったところがなくて全方向的に球状を

呈しているため、衣服等に触れても引っ掛ける恐れは全くなく、しかも、単調に流れ勝ちな眼鏡の側面形状に球形のワンポイント的变化を形成するのでデザインの的にも面白いものとなる。

また、構造的に見ても、スリット4とフランジ部11との接触面積が大きく、安定的でガタツキも少ないため強度的にも頑丈である。

このように、本考案によれば、実用的にもデザインの的にも従来の眼鏡蝶番には期待できない効用が得られる。

#### 4. 図面の簡単な説明

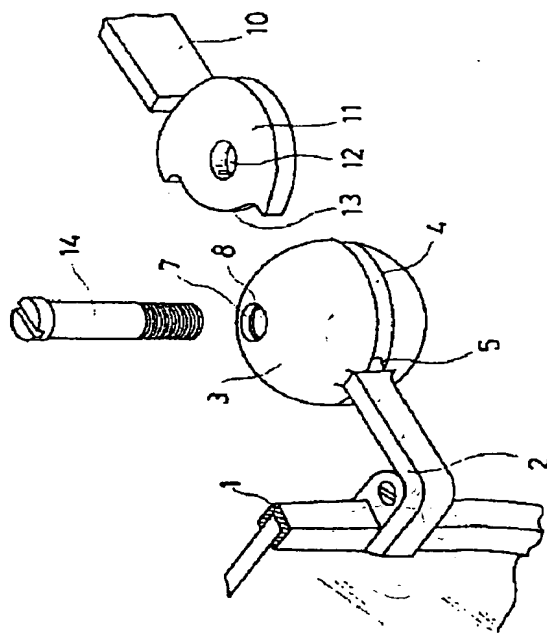
図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は分解斜視図、第2図は縦断側面図、第3図は第2図のA-A断面図である。

2…ブラケット、3…球形部、4…スリット、  
5…ストッパー、6…ネジ孔、7…座割、  
8…沈み孔、10…テンプル、11…フランジ部、  
12…軸孔、13…小径部、23…蝶番軸。

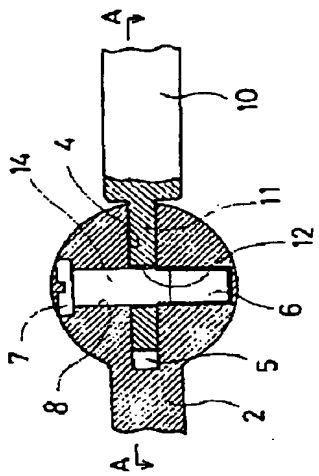
実用新案登録出願人 青 柳 健 男  
代 理 人 弁 理 士 戸 川 公 二



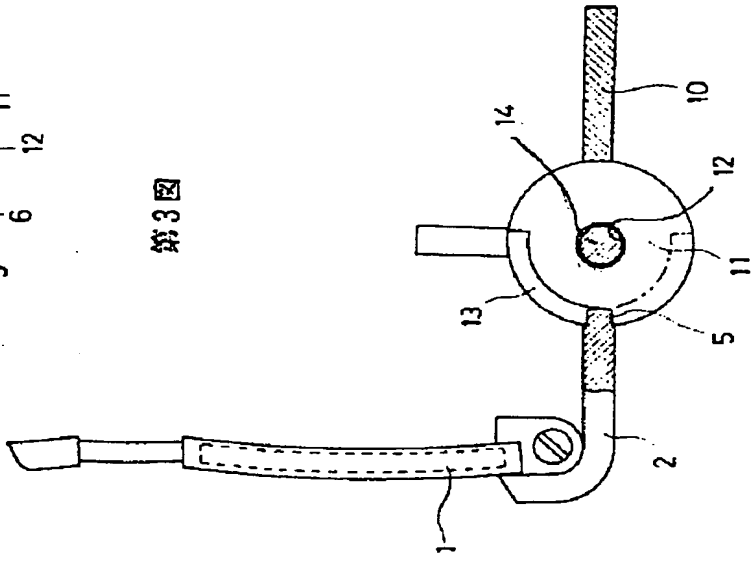
第1図



第2図



第3図



216 実用62-35322

代理人 井理士 戸川 公二